

(主張)「安心・安全への信頼は透明性の確保から」

最近のトピックスとして取り上げたいのが、東京都豊洲市場の土壌問題であろう。知事が交替して俄かに様々な情報が公表され、むしろ暴露されてきた感じが強い。都の隠蔽体質も徐々にマスコミを通じて知ることとなった。食品を扱う市場で、安全性を重視と言いながら、何故土壌問題のある東京ガスの工場跡地を選択したのか。都のグランドデザイン設計な合理的なものではなく、はっきり言えば、特定の人物、団体への利益誘導が選定要件のトッププライオリティなのだろう。その他の要件は後付けなのかと疑う。東京ガスと東京都に何があったのか。天下り問題が大きく横たわっているのではないか。

都は自らが主導して地下空間を設計・建築しておきながら、最近まで全敷地に盛土をして有害物質を遮断出来ていると議会、都民に説明を続けてきた。豊洲で有害物質のモニタリングを継続してきたが、それを見透かすかのように最近、基準値超えの数値が出てしまった。このままだと、法的に2年間のモニタリングがリセットになり、移転は出来ないそうだ。慎重に検討することが重要であると大きく主張したい。

医療も同様に安心・安全と信頼性が瓦解すれば存在理由を問われる。医療の世界に当てはめるとどうなるのだろう。熊本、化血研の偽装問題であろうか。化血研は薬害エイズ事件で非加熱の血液製剤を使用して、HIV、エイズ感染者を拡大させた。その化血研で、1974年から厚労省の承諾書とは異なる製造方法で血液製剤の全てが製造されていたという。製造記録を2通り作成して監査対策を組織で行っていた。正に常軌を逸しているという言葉が当てはまる組織問題である。

この2つの問題とも現段階の実害は確認されていないが、化血研が厚労省の承認外の製造方法を採用した薬害エイズのような被害が、今後、発覚しないと誰も言えない。東京都の豊洲市場の土壌問題も同様である。

民主主義とは手続きである。多数で議論と確認を行い、コンセンサスを得ながら進めていく。一部の人間が勝手に良かれと思って決定し隠蔽すれば、安心・安全と信頼性は消え失せる。地下空間を作った方が設計上良かったのなら、議会や都の執行部に報告して設計変更の承認を得れば良い。ゼネコンが、自らの設計が合理的だと施主（都民）に説明したところで理解出来ないからと、上から目線で断りなしに設計変更したら、結果の善し悪しに関わらず、損害賠償訴訟となる可能性は高い。都の市場整備部全員で賠償したらいいのではないか。

科学的に根拠があったとしても、安心・安全と信頼性は自分ではなく、都民、国民単位の思いが決定する。自分が決めるのではない、他人が決めるのだと肝に銘じることは誰にとっても必要だ。

住民の安心・安全を担保するためには、議論や決定のあらゆる場面で、高度な透明性を確保することが必要である。いずれの問題についても、徹底した原因究明を行うとともに、天下り体質を変えることに着手してほしい。